

# 環境経営レポート

## 2020年度（令和2年）

（活動期間：2019年10月～2020年9月）



京葉総業グループは、全員で資源リサイクル事業の取り組みを更に推進させる為に、廃棄物のリデュース（発生抑制）・リユース（再利用）・リサイクル（再生利用）の3Rを通じて、環境経営のもと、「地球温暖化防止と資源循環型社会への貢献」に取り組んでいます。

作成：2020年11月25日

株式会社 京葉総業・有限会社 京葉総業

船橋

習志野

八千代

市川

白井

千葉全域

お問い合わせは [✉ contact@keiyo-sogyo.co.jp](mailto:contact@keiyo-sogyo.co.jp)

**0120-047-462** (本社)

**0120-117-880** (白井中間処理場)



## ＜ご挨拶＞

地球温暖化・気候変動を起きている中で、我が国もその影響は計り知れなく毎年のように局地的な災害に見舞われています。先人が積み重ねた自然との共生が不確定な時代となり次々と自然破壊に繋がり、人類発の環境破壊は止めどもなく進んでいます。

加えて我が国でも経験した環境負荷のアウトソーシングを展開する側となり、我が国の環境負荷相当分が国外にシフトされ、環境負荷の少ない環境にいいとこどりのチェリーピッキングの製品とサービス業のビジネス分野に転換されています。

リサイクル業として、動脈のモノ作りからの資源は細り、より地域に密着した資源回収に頼らざるを得ません。今後、新型ウィルス禍をはじめ地球規模の環境問題が懸念される中、各企業は「どこに、どこへ、向かうべきか、走りながら現実の経営課題と将来へのビジネスモデルの創出」が問われる時代となりました。当社も環境ソリューションサービスを強みとして、行政・市民・事業者との連携を大切に進めたいと考えています。

その機会としてこの度、運用開始した新ガイドライン2017年版を活用し、新たな要求事項の「課題とチャンス」を全社員と共有し、将来、「エコアクション21に取り組んで良かった」と、皆様と成果を実感できるよう、「環境経営」の推進を果たす所存です。



千葉県の取引先ニーズの先取りで、リサイクルランナーのトップを目指しました。この度の感謝状は、今まで環境経営の継続改善の賜物であり大変感謝しております。

## 1. 会社組織の概要

		株式会社京葉総業	有限会社京葉総業※
法人設立年月日		昭和 56 年 11 月 13 日	平成 4 年 9 月 24 日
資本金		1,600 万円	300 万円
売上高	2020 年度	616 百万円 (決算期 9 月)	256 百万円 (決算期 8 月)
事業所名		株式会社京葉総業	有限会社京葉総業白井作業所 (産業廃棄物処理中間施設)
代表者名		代表取締役 小出 勉	代表取締役 小出 淳一
所在地		〒274-0817 千葉県船橋市 高根町 2712-1	〒270-1431 千葉県白井市根 13 番 1
ホームページ		<a href="http://www.keiyo-sogyo.co.jp/">http://www.keiyo-sogyo.co.jp/</a>	
環境経営責任者氏名		小出 勉	小出 淳一
担当者連絡先	担当	三宅 由起子	周郷 富友美
	電話)	047-407-7500	047-492-6227
	(FAX)	047-407-7520	047-492-6228
事業活動の内容		①一般廃棄物収集運搬業 ②産業廃棄物収集運搬業 ③特別管理産業廃棄物収集運搬業	①産業廃棄物収集運搬業 ②産業廃棄物中間処理業





		(平成 15 年 11 月 21 日)
圧縮施設	1	金属くず 7.9 t/日 (0.99t/時×8 時間) 廃プラスチック類 6.3 t/日 (0.79t/時×8 時間) (平成 27 年 12 月 10 日)

【保管量】～保管場所：千葉県白井市根字下郷谷 1 3 番 1、1 4 番

主な施設の種類		数量	保管量
処理前物保管施設	搬入品一時保管施設	2	6.8 m <sup>2</sup> 8.1 m <sup>3</sup> (コンテナ保管)
	(廃プラスチック類、木くず、紙くず、繊維くず、金属くず、ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず)		
	廃プラスチック類、木くず、紙くず、繊維くずの保管施設 (RPF 原料用)	2	36 m <sup>2</sup> 52 m <sup>3</sup>
	廃プラスチック類、木くず、紙くず、繊維くずの保管施設 (RPF 原料用以外)	2	36 m <sup>2</sup> 52 m <sup>3</sup>
	紙くずの保管施設	1	36 m <sup>2</sup> 52 m <sup>3</sup>
	木くずの保管施設	1	36 m <sup>2</sup> 52 m <sup>3</sup>
	金属くずの保管施設	1	6.8 m <sup>2</sup> 8.1 m <sup>3</sup> (コンテナ保管)
	ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くずの保管施設	1	6.8 m <sup>2</sup> 8.1 m <sup>3</sup> (コンテナ保管)
	処理後物保管施設	廃プラスチック類、木くず、紙くず、繊維くずの保管施設 (RPF 原料用)	1
廃プラスチック類、木くず、紙くず、繊維くずの保管施設 (RPF 原料用以外)		1	36 m <sup>2</sup> 52 m <sup>3</sup>
木くずの保管施設		1	6.8 m <sup>2</sup> 8.1 m <sup>3</sup> (コンテナ保管)
金属くずの保管施設		1	6.8 m <sup>2</sup> 8.1 m <sup>3</sup> (コンテナ保管)
ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くずの保管施設		1	6.8 m <sup>2</sup> 8.1 m <sup>3</sup> (コンテナ保管)
残さ物の保管施設		1	6.8 m <sup>2</sup> 8.1 m <sup>3</sup> (コンテナ保管)
廃プラスチック類の保管施設 (処理前物)		1	6.8 m <sup>2</sup> 8.1 m <sup>3</sup> (コンテナ保管)
廃プラスチック類の保管施設 (処理後物)		1	8.2 m <sup>2</sup> 8.2 m <sup>3</sup> (パレット保管)

【処理工程】

選別→破碎→出荷（リサイクル、処分）及び選別→圧縮・梱包→出荷（売却）

<施設等の状況(令和2年11月24現在)>

	株式会社 京葉総業	有限会社 京葉総業
運搬車両	4トンパッカー車 4台	4トンパッカー車 1台
	3トンパッカー車 10台	2トン平ボディ車 2台
	2トンパッカー車 2台	4トンアームロール車 4台
	4トンアームロール車 2台 *	2トンダンプ車 1台
	2トン平ボディ車 7台 *	
	バン 1台 *	
	冷蔵冷凍車 1台 *	
	計27台（*印は産廃車、他一廃車）	計8台（産廃用車両）
車両系建設機械等 (重機類)	—	ペーローダー 2台
	—	ユンボ 3台
	—	1.5t/2t フォークリフト 3台
	—	破碎機 55kW 1台
	—	圧縮機(10/12 縮小) 1台

お客様の立場に立って、「安全・安心・確実に！」をモットーに従事しています。



4. 産業廃棄物の処理実績（受託分の処理量～収集運搬量、中間処理量、最終処分量）

株式会社京葉総業 : 年度 (単位: t)	2018年度	2019年度	2020年度
一般廃棄物収集運搬量	10,223	9,807	8,302
産業廃棄物収集運搬量(特管含む)	4,246	3,494	4,336
*医療系・感染性産廃収集運搬量	21.7	23.1	22.6

\*活動期間を会計年度(10月～9月)に合わせた。 \*特別管理産業廃棄物

有限会社京葉総業 : 年度 (単位: t)	2018年度	2019年度	2020年度
産業廃棄物収集運搬量	678	471	572
産業廃棄物処分量(中間処理)	3,818	3,498	3,625
うち再資源化等量	3,543	3,316	3,549
*中間処理後再資源化等量(最終処分量含む)	2,579(964)	2,410(851)	2,592(957)

\* 活動期間を会計年度（10月～9月）に合わせた。 \* 単純焼却含む。

5. 廃棄物処理料金～料金は種類, 性状, 量, 運搬距離等に個別見積。（無料）

6. 環境負荷の状況

2020年度（2019.10～2020.9）		単位	全社合計	本社（船橋）	白井作業所
二酸化炭素排出量 合計		kg-CO <sub>2</sub>	435,469	325,911	109,558
購入電力			18,334	4,141	14,193
化石燃料			417,135	321,770	95,365
産業廃棄物	収集運搬量	t	6,370	4,336	572
	中間処理量		3,625	—	3,625
	処理後最終処分量		947	0	957
一般廃棄物	総排出量		0.125	0.075	0.050
水資源投入量	地下水使用量	m <sup>3</sup>	802	70	732
総排水量	合計		802	70	732

1) 購入電力の排出係数について（2018年7月公表）CO<sub>2</sub> 実排出係数は0.4740kg-CO<sub>2</sub>/kWhを適用。

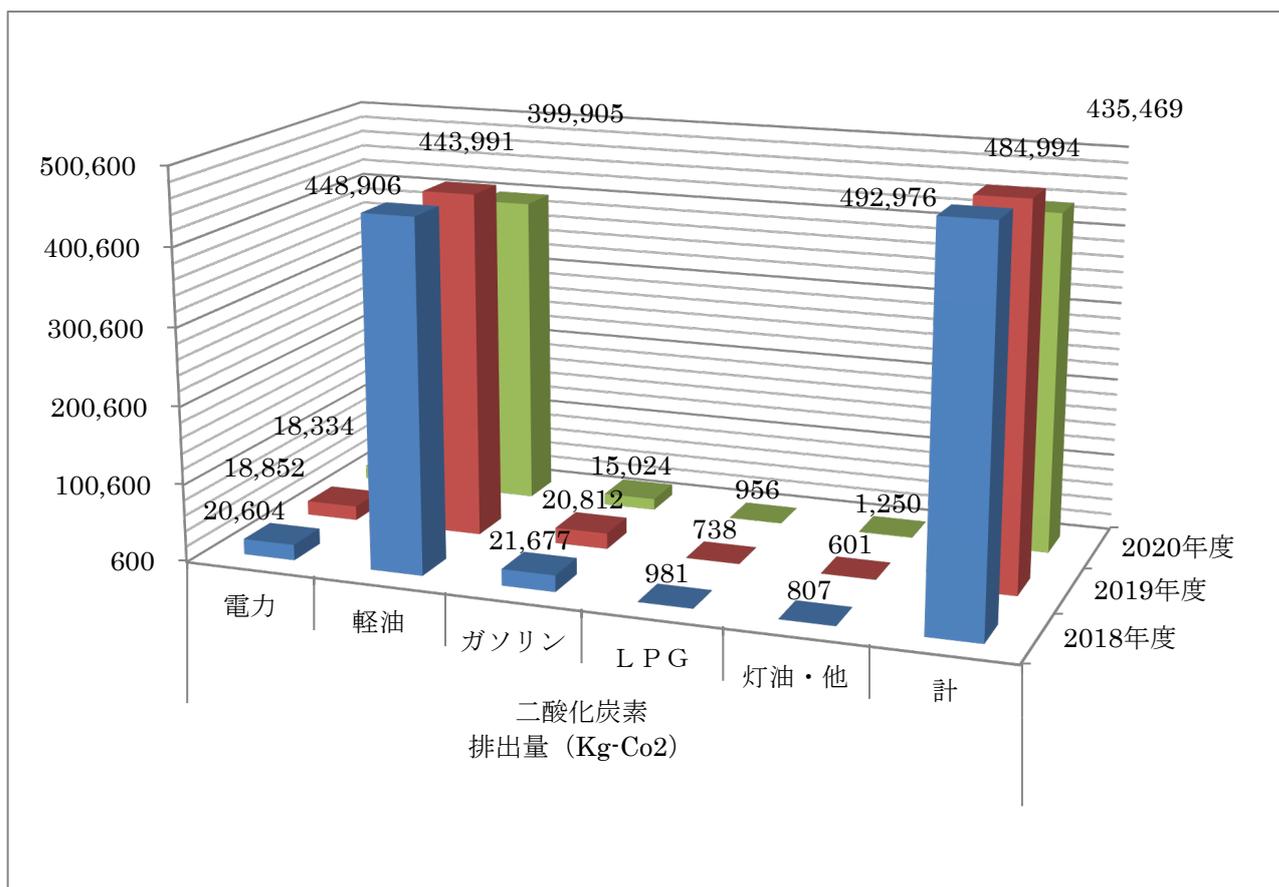
2) LPG: 1m<sup>3</sup>=2.18kgの日本LPガス協会の換算値を使用。

3) データは、株式会社京葉総業、有限会社京葉総業の合計値。

4) 水資源投入量は、(株)京葉総業は地下水メータ付けでないため推定量(年間70m<sup>3</sup>)を適用。

<主なエネルギーの二酸化炭素排出量推移（3年間）>

2018年度～2020年度状況



## 7. 環境経営方針

### 《 環境経営方針 》

当社は、「地球と地域に貢献する企業」をモットーに、一般廃棄物の収集運搬、産業廃棄物の収集運搬（特管廃棄物を含む）及び中間処理を通して、当社の関係する環境関連の法令等の遵守と共に、環境に配慮したリサイクル活動を推進し、地球温暖化防止と資源の有効活用を図るために、以下の環境経営目標に取り組む、継続的改善に努めます。

### 《 環境経営目標 》

(1) 排出事業者様とのコミュニケーションを積極的に計り、リサイクルの拡大を図ります。

特に排出事業者様のリサイクル活動に貢献する分別等の改善提案に努めます。

(2) 社内での省資源・省エネ活動を推進し、地球温暖化防止と資源の有効活用を図ります。

特に地下水とエネルギーの節制に努め、適正使用を継続して行きます。

(3) 社内のOA機器と電気製品、照明等を省エネ製品を優先して購入を推進します。

(4) 排出事業者様からの信頼を大切に、優良産廃処理業者として、地域社会の良き環境パートナーとして循環型社会へ貢献して行きます。

当社の環境経営方針は揭示すると共に、全従業員が周知します。

また、環境への取組状況を「環境経営レポート」と、当社ホームページで公表して行きます。

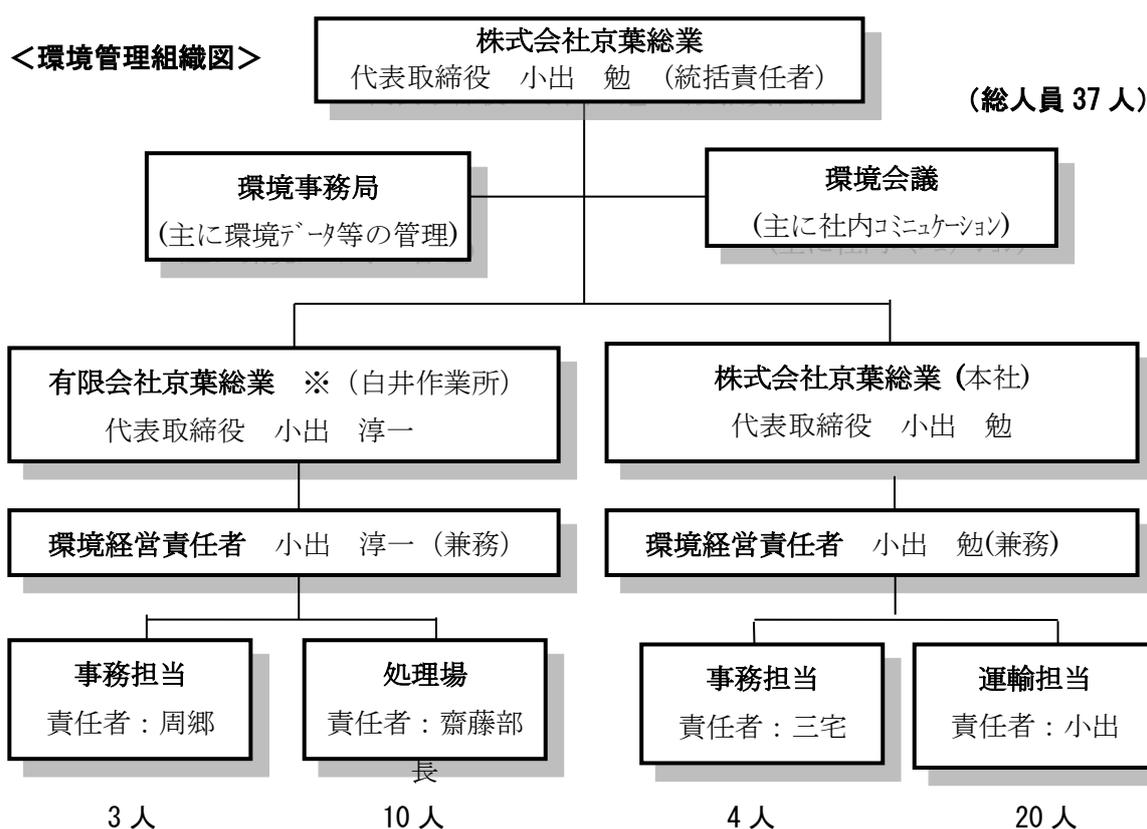
制定 2007年 4月 1日

改定 2019年10月 1日

株式会社京葉総業 有限会社京葉総業

代表取締役 小出 勉

## 8. 組織図



※(株)京葉総業子会社であり、(株)京葉総業代表取締役小出勉の指揮に従い環境活動を実施。

### <役割・責任・権限>

#### 代表者（統括者）

- 1) 経営理念と方針に関わる「経営課題と機会（チャンス）」の創出
- 2) 環境マネジメントシステムの実施と管理に必要な人、物、金の提供
- 3) 環境マネジメントシステムの実施、維持及び権限を有する環境経営責任者の任命
- 4) 環境経営方針の制定、周知
- 5) 環境関連文書類の承認（環境経営レポート含む）
- 6) マネジメントレビューの実施

#### 環境経営責任者

- 1) 環境経営目標計画（中期）、環境経営計画（年度）の作成及び管理
- 2) 外部環境情報の窓口及び対応
- 3) 遵法評価の実施
- 4) 環境関連文書類の作成（環境経営レポート含む）
- 5) 是正・予防処置の指示、有効性の確認
- 6) マネジメントレビューのための情報提供及び記録の作成

#### 各責任者・従業員

- 1) 環境経営目標計画（中期）、環境経営計画（年度）の実施と結果報告
- 2) 是正・予防処置の実施

### 9. 環境経営目標（2020～2023年度の3か年中期計画：会計年度10月～9月：2020.3.1見なおし版）

※CO<sub>2</sub>排出係数は0.474kgCO<sub>2</sub>/kWh（東京電力エナジーパートナー(株)、平成28年度調整後）を使用

	環境目標項目 (負荷の自己チェックを踏まえて策定)	責任部門 責任者	基準値 (基準年度)	年度毎目標と主な達成手段 (取組の自己チェックを踏まえて策定)					
				2020年度	2021年度	2022年度			
				2020年度	2021年度	2022年度			
二酸化炭素排出量の削減	中間処理設備の電力使用量削減による二酸化炭素排出量削減	白井作業所	電力使用量削減	基準年度比	99%	98%	97%		
			31,175 kwh	目標値	30,863 kwh	30,552 kwh	30,240 kwh		
		環境管理責任者	2019年度	達成手段	定期点検等励行で故障件数削減(破碎機等)	定期点検等励行で故障件数削減(破碎機等)	定期点検等励行で故障件数削減(破碎機等)		
				処理作業の効率化アップ	処理作業の効率化アップ	処理作業の効率化アップ			
				作業所の空調温度の適正化	作業所の空調温度の適正化	作業所の空調温度の適正化			
				(冷房28℃ 暖房20℃)	(冷房28℃ 暖房20℃)	(冷房28℃ 暖房21℃)			
	収集運搬車両の軽油使用量削減による二酸化炭素排出量削減	本社	軽油使用量削減	基準年度比	99%	98%	97%		
			130,768 リットル	目標値	129,460 リットル	128,153 リットル	126,845 リットル		
		環境管理責任者	2019年度	達成手段	効率的な収集ルートの確認・指示	効率的な収集ルートの確認・指示	効率的な収集ルートの確認・指示		
					繰り返し修理車両の監視と修理費の削減	繰り返し修理車両の監視と修理費の削減	繰り返し修理車両の監視と修理費の削減		
					修理履歴等の携行カード備付	修理履歴等の携行カード更新版の備付	修理履歴等の携行カード更新版の備付		
					オイル・エレメントの定期交換等による故障防止	オイル・エレメントの定期交換等による故障防止	オイル・エレメントの定期交換等による故障防止		
環境経営の推進・省資源・省エネの推進	廃棄物処理コストの分析と処理課題の創出(洗い出し)	本社	経営課題へのチャレンジ(新規)	基準年度比	現状分析	目標設定	目標展開・試行		
			2017年ガイドライン	目標値	年度内に分析迄の実施	年度内に目標設定の実施	年度内に目標展開の実施		
		環境管理責任者	環境経営の推進(一廃・産廃の拡充策)	達成手段	処理実績の把握・分析	課題・チャンスの設定	取組新目標の展開実施		
					一廃・産廃の比較等実施	経営貢献度の高い目標設定	新目標の展開実施		
		コピー用紙の削減	本社	OAの改善促進	基準年度比	99%	98%	97%	
				174 kg	目標値	172 kg	171 kg	169 kg	
		環境管理責任者	2018年度	達成手段	業務連絡のメール化	業務連絡のメール化	業務連絡のメール化		
					社内資料のデータ共有化	社内資料のデータ共有化	社内資料のデータ共有化		
					印刷ミス用紙の裏紙使用	印刷ミス用紙の裏紙使用	印刷ミス用紙の裏紙使用		
環境経営の推進	産業廃棄物処理事業におけるリサイクルの推進(新規顧客の獲得によるリサイクル処理量の拡大)	白井作業所	経営課題へのチャレンジ(新規)	基準年度比	現状分析	目標設定	目標展開		
			2017年ガイドライン	目標値	年度内に分析迄の実施	年度内に目標設定の実施	年度内に目標展開の実施		
		環境管理責任者	環境経営の推進(産廃の拡充策)	達成手段	処理実績の把握・分析	課題・チャンスの設定	取組新目標の展開実施		
					産廃の比較等実施	経営貢献度の高い目標設定	新目標の展開実施		
省資源・省エネの推進	地下水の使用量削減	白井作業所	地下水水資源の有効使用の徹底	基準年度比	99%	98%	97%		
			882 m <sup>3</sup>	目標値	873 m <sup>3</sup>	864 m <sup>3</sup>	856 m <sup>3</sup>		
		環境管理責任者	2019年度	達成手段	処理施設の適正運転による節水	処理施設の適正運転による節水	処理施設の適正運転による節水		
					洗車水の適正利用	洗車水の適正利用	洗車水の適正利用		
環境経営の推進	広報・提案活動の推進による新規顧客の獲得	本社	新規顧客の拡大	基準年度比	105%	110%	115%		
			120 件	目標値	126 件	132 件	138 件		
			環境管理責任者	2018年度	達成手段	朝礼等での現況確認と指示	朝礼等での現況確認と指示	朝礼等での現況確認と指示	
							提案優秀者の表彰	提案優秀者の表彰	提案優秀者の表彰
				白井作業所	新規顧客の拡大	基準年度比	105%	110%	115%
					93 件	目標値	98 件	102 件	107 件
		環境管理責任者	2018年度	達成手段	朝礼等での現況確認と指示	朝礼等での現況確認と指示	朝礼等での現況確認と指示		
							提案優秀者の表彰	提案優秀者の表彰	提案優秀者の表彰
環境経営の推進	地域社会貢献の推進と共に経営基盤の強化	本社	BCP(事業継続計画)体制の確立	基準年度比	情報収集・現状把握	運用イメージ・展開計画	教育・試行運用		
			2017年ガイドライン	目標値	達成手段・施策の期限内実施	達成手段・施策の期限内実施	達成手段・施策の期限内実施		
		環境管理責任者	災害等の緊急対応	達成手段	ネット・省庁等からの情報収集とマニュアル化検討	運用イメージからマニュアル作成	運用計画・防災ハンドブック等の作成と携行		
					社内の現況把握と運用可否検討し構築計画を立案	導入から運用計画の作成	教育・訓練の実施		

10. 2020年度環境経営活動実績の取組結果とその評価 (活動期間2019年10月~2020年9月)

項目	実施部門	目標値	実績値	達成率	評価	環境経営活動取組結果のコメント
二酸化炭素排出量削減	白井	処理施設 電力使用量 30,863kWh 内	29,944 kWh	103%	○	空調設備等の適正使用により目標達成。特に、圧縮機・破砕機の使用時間以外の電源停止を徹底した。
二酸化炭素排出量削減	本社	収集運搬車両 の軽油使用量 129,460 ㍓内	120,859 ㍓	106.6%	○	効率的な収集ルートの確認・見直し指示等こまめに実施し順調に推移した。
廃棄物処理コスト分析と処理課題の創出	本社	データ 把握・分析	年度内 把握分析	予定通 り進捗	○	一廃／産廃の品目別運搬量・処分費等集計表を作成した。(環境負荷データ管理表)
コピー用紙の削減	本社	172kg 以下	147kg	114.6%	○	コロナ禍での対応件数減も作用したが印刷ミス防止、社内文書の共有化で目標達成。
産業廃棄物リサイクル推進	白井	新規顧客獲得	年度内 把握分析	予定通 り進捗	○	一廃／産廃の品目別運搬量・処分費等集計表を作成した。(環境負荷データ管理表)
地下水の使用量削減	白井	873 m <sup>3</sup> 以下	732 m <sup>3</sup>	119.3%	○	回転式スプリンクラーを取付・使用し場内散水が効果的に出来目標達成。
広報・提案活動で顧客拡大	本社	提案 126 件	58 件	46%	△	新型コロナウイルスにより新規の問合せが減少し目標未達成となった。従業員の安全第一を優先対応し次年度に期待とする。
	白井	提案 98 件	90 件	91.9%	△	
地域社会貢献の推進と経営基盤の強化	本社	情報収集	年度内 把握・分析	予定通 り進捗	○	災害対策等を中心に検討の中、新型コロナウイルス対策が発生し追加を検討し見なおしの上継続。

【評価欄】 ○：80%以上 △：40%以上 79%以内 ×：40%以下

## 1.1. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

2020年10月29日に環境関連法規等の遵守状況を確認した結果、環境関連法規等への違反はない。尚、過去3年間、関係当局からの違反等の指摘はない。利害関係者からの苦情等については、過去、地域住民から「早朝の運搬車両からのアイドリング音がうるさい」の苦情以降は無い。

### 【主な環境関連法規】

廃棄物処理法、自動車NOx・PM法、道路運送車両法、貨物自動車運送事業法、浄化槽法  
消防法、騒音規制法、労働安全衛生法、フロン排出抑制法(業務用冷凍空調機)



エコドライブに心掛け、プロドライバーとしての安心・安全努力と遵法努力を評価するために、毎年度エコドライブ推進と無事故運転の社員を表彰。今後も評価・表彰制度の継続と充実に努めます。

## 12. 代表者による全体の評価と見直し（2020年10月30日実施）

新型コロナ禍の影響により、顧客とのコンタクトが減少しリサイクルの提案活動は、未達成であったが、処理量の減少も有るが新規スタート年度で、二酸化炭素の排出量の削減目標を達成できた点は今後活かしたい。

### (1) 環境経営責任者からの報告

報告項目	報告内容	評価
環境経営システム	新ガイドライン対応の環境経営マニュアル改定版の規定に従い、計画通り取り組め特に問題ないことを報告。	○
環境目標及び活動実績	直近の2018年度を基準年度とした、新たな目標は概ね達成した。特に、二酸化炭素の排出量の削減は、最大負荷の軽油の使用量をはじめ電力使用量の削減が日頃の当たり前活動等の積み上げた取り組みの成果であり継続しい目標達成に期待出来ると報告。	○
環境関連法の遵守状況	環境関連法令登録表により、2020年10月29日に遵法性を確認し問題は無い事を報告。	○
外部から苦情・要望	2020年10月26日に、環境に関わる苦情・要望と緊急事態の発生が無かった事を報告。	○
緊急事態訓練	火災発生時と運搬車両事故時を想定した訓練を実施し、特に問題なく実施成果を得た旨報告。	○
前回レビュー時の指示事項の対応状況	前年度の定期レビュー時の指示事項について、新ガイドラインへの適用と円滑なる対応について指示があったが、関連規定・手順書類の改定の上運用されている事を報告。	○

### (2) 代表者による指示事項

変更の必要性の有無	① 環境経営方針	変更の必要なし
	② 環境経営目標	同上（新規取組目標の見直しについては了解）
	③ 環境経営計画	同上（新規取組目標の見直しについては了解）
	④ 環境経営システム	同上

以上